

ACCESS INFORMATION

佐賀県北部玄界灘に浮かぶ

七つの島物語

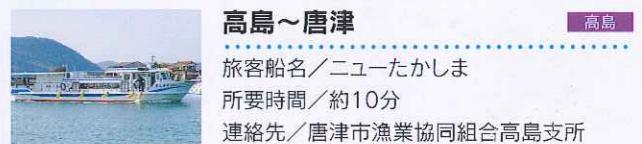
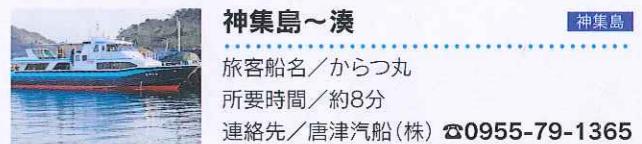
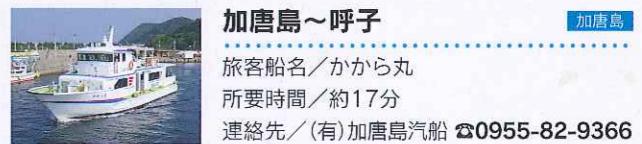
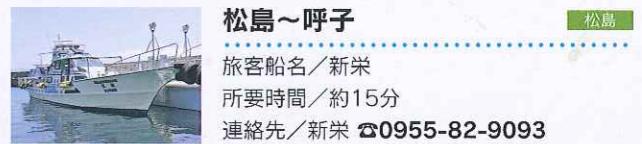
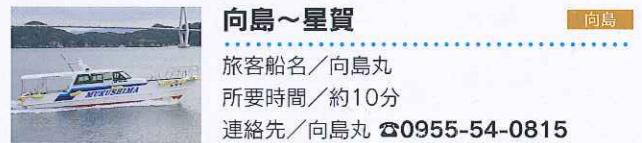
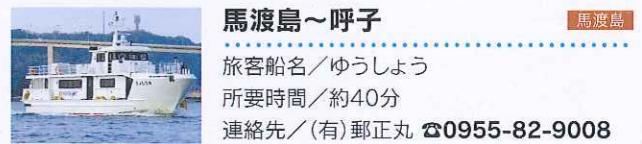
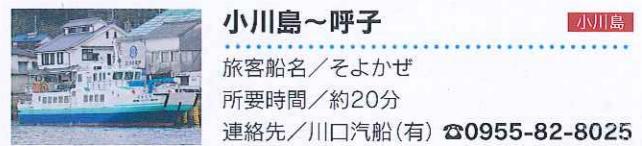
Story of seven islands that float on Genkai-nada

人情 自然 伝統

● 高島 Taka-shima
● 神集島 Koshizumijima
● 加唐島 Kakamijima
● 松島 Matsushima
● 向島 Mukōjima
● 馬渡島 Matsumochijima
● 小川島 Ogawajima

佐賀県唐津市

佐賀県唐津市馬渡島／番所の辻



●ホームページアドレス
www.saga-shima-show.jp

唐津市(高島・神集島・小川島・加唐島・松島・馬渡島・向島)
島づくり事業実行委員会

〒847-8511 佐賀県唐津市西城内1-1(唐津市役所内)
TEL0955-72-9212 FAX0955-72-9236

*文中の世帯数・人口は、平成21年12月31日現在の住民基本台帳に基づきました。

contents .

3	捕鯨に沸いた島は、今も豊かな海と暮らす 小川島 面積0.92km ² /標高61m/人口493人/本土との距離5.0km
7	仏教徒とカトリック教徒－信仰心が厚い祈りの島 馬渡島 面積4.24km ² /標高238m/人口489人/本土との距離8.0km
11	島全体が家族－強い絆で結ばれたアットホームな島 向島 面積0.30km ² /標高67m/人口90人/本土との距離2.3km
15	島民は敬虔なカトリック信者－ロザリオの島 松島 面積0.63km ² /標高138m/人口79人/本土との距離3.2km
19	韓国との友好深める百濟25代国王「武寧王」の生誕地・加唐島 加唐島 面積2.84km ² /標高123m/人口195人/本土との距離3.5km
23	恋人や家族への思いを詠う万葉の島 神集島 面積1.41km ² /標高85m/人口473人/本土との距離0.6km
27	高島の宝「宝当神社」が島おこしの起爆剤に 高島 面積0.62km ² /標高170m/人口325人/本土との距離2.2km

※島の色は虹(レインボー)のように上から ● ● ○ ○ ● ● ● で
島のシンボルカラーになっています。
※人口は21年12月末の住基台帳によります。

唐津市長 坂井俊之

ごあいさつ

佐賀県北部玄界灘には、島が七つあり、レインボーアイランドと称して、

それぞれ特色ある輝きを見せて います。

唐津市では、地域資源を活用した住民自らの創意工夫ある取り組みによつて

七つの島が、それぞれに個性ある輝きを放つことを目指して いる

「島づくり事業」を支援し、将来の自立的発展を促して おります。

今回、各島の島づくり事業実行委員会が合同で、情報発信事業の一環として、

島の自然、伝統、人情などをきめ細やかに収めた冊子「七つの島物語」を作成されました。

紙面から発信される素晴らしい自然やそこに生きる人々の姿は、

生き生きとしていて、力と躍動感を感じさせてくれます。

皆様もぜひ一度島を訪ねていただきたいと思 います。

今後唐津市としましても、さらに島の特性を活かしながら、島民の皆様と相互に連携し、

元気な島を作り上げていきたいと考えて おります。

この冊子を通して、ありのままの島の様子をご理解いただくとともに

今後の島の振興発展に温かいご支援をいただければ幸いです。

島の人々の暮らしは、
私たちに生命というものを
感じさせてくれる。

時に穏やかで、時に荒れ狂う玄界灘に浮かぶ大小七つの島々。

島には一島一様に育んできた文化があり、代々伝わってきた伝統がある。生業とする漁や交通手段は船だけという自然に左右される暮らし。

人の力では逆らえないことがあることを身に染みて知る島の人々は、「ケセラセラーなるようになれ」と実におおらかだ。

島に暮らす子どもたちも純真で優しく、

大人たちは信仰に厚く、祈りと感謝を忘れない。

島の人々の暮らしには、私たちに人間も自然の一部だということを感じさせてくれる。

これからも文化と伝統を守りつつ、新しい生き方も摸索していく。





今も豊かな海と暮らす 捕鯨に沸いた島は、

かつて捕鯨基地だった
島はイカ漁の基地に

江戸時代、捕鯨の島として栄えていた小川島。秋ごろから温かい場所を求めて南に向かう鯨は、イカなど餌が豊富な小川島周辺の海域を通り道にしていました。

鯨が小川島周辺に出没するのは十一月から三月、四月まで。毎年、その時期になると呼子の鯨組の組主・中尾家が、鈎を突く人、船をこぐ人、捕鯨に必要な島内外の人々を束ねて、小川島に捕鯨前線基地を作りました。

島の一番高い「地の山」には、今も残る鯨の見張所があり、鯨を見つけると見張所の東西に



鯨見張所から見る近海の風景。
いつ姿を見せるかわからない鯨を待ち続けた

「小川島鯨骨切り唄」 を後世に伝える

豊かな海の資源は変わらず存在し、島の人々はイカ漁へと移行して、島の人々の生活を支えています。

和歌山県・紀州藩から全国に広まった捕鯨の技術と共に、作業唄や祝い唄も一緒に伝わりました。鯨の解体作業がスムーズに進むように唄った「小川島鯨骨切り唄」は、完全な状態で残っているのは全国的に珍しく、後世に残そうと「保存会」が発足。30年前には「小川島鯨骨切り唄」とともに「セミのいお」が発見されました。30年前には「小川島鯨骨切り唄」とともに「セミのいお」が発見されました。今は小川島の人なら誰でも知っている伝統歌になっています。



島民は日を決めて「ひじき」採り。一度茹でてから乾燥させるため、島内には茹でるための火の煙が立ち込める



イカ釣り船が並ぶ漁港



こりこりと歯ごたえがあり、甘みが強いイカの活き造り



納屋場での鯨の解体の様子。威勢よく「小川島鯨骨切り唄」を歌う声が聞こえてきそうだ『小川島鯨骨合戦』

立つ旗さおに旗が揚がります。
どちらに揚がるか、どの辺りまで揚がるかで、島からの距離や位置を知らせ、近くの島の応援も得て鯨を捕らえていました。

一回の捕鯨で海にいる人は500人ほど。港には鯨を解体したり、鯨油を取ったり、保管、船の修理をするための「納屋場」があり、そこには約300人が作業をして活気づいていた

しかし、鯨がイカなどの餌を追つて回遊した小川島周辺の



「小川島鯨骨切り唄」を踊るこども保存会のみなさん

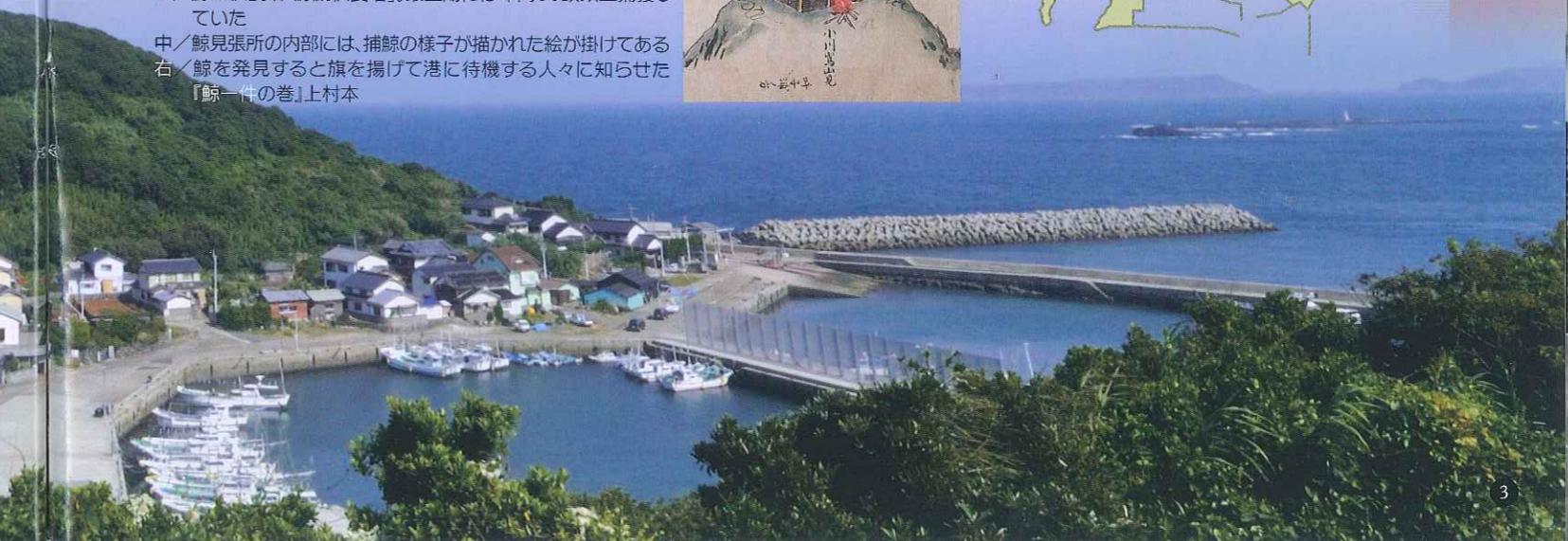


さつま芋がたっぷり入った鯨の鍋雑炊



左／鯨の供養塔「鯨鯢供養塔」。最盛期には年間50頭以上捕獲していました。

中／鯨見張所の内部には、捕鯨の様子が描かれた絵が掛けている。右／鯨を発見すると旗を揚げて港に待機する人々に知らせた『鯨一件の巻』上村本



島 点描 小川島



1.子どもたちも祭りに参加でき楽しそう 2.小川島を海より眺める 3.鯨見張所の先には青い海が広がる 4.田嶋神社の一番奥に見える鳥居は大納屋奉納の鳥居 5.島に咲く花は南国を思わせる 6.ひじきを夜遅くまで家族総出で茹でるのも島の風物詩 7.島では船も子どもの遊び道具 8.大勢の人が参加したくじらウォーク 9.のびのび育つ島の子どもの瞳は素朴でかわいい 10.卒業式は島民でお祝いする 11.各家にお稲荷さんがある 12.散在する不動明王やお大師さん

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12

島 * と ひ っ く す

男の子の誕生を祝う 初鳳(はったこ)

盆過ぎの8月16日、前年に男の子が生まれた家が鶴亀や大黒、恵比寿が描かれた2~4畳ほどの巨大な鳳を上げます。当日の朝、親戚が集まり作りあげ、広場で上げて、村の中まで引いていきます。人生の始まりを祝うもので、作り方は島の長老たちが教えます。



正月に欠かせない家庭の味 巻きずるめ



正月には3段重ねや5段重ねのお重に、数の子や黒豆、酢の物などを準備しますが、小川島ではその1つに「巻きずるめ」が入ります。イカの皮をむき一夜干しして中骨と頭を外します。中表にして外した頭と足を巻き込み、糸で縛ってしょう油やみりんなどで薄味をつけ煮ます。12月初旬には作り初めて、島外に住む親戚などにも故郷の味を送ったりするそうです。酒のつまみにおいしく、小川島漁協の売店でも販売しています。

問／小川島漁業協同組合
TEL0955-82-8321



左上／豪華な飾りの山笠。戦前は担いで島を練り歩いたという
左下／子どもたちもソーラン節で祭りを盛りあげる
中上／歌舞伎役者のような白塗りに思わず笑顔
中下／山笠を曳く島の人々
右／男衆の顔には化粧、色とりどりの法被で曳く山笠は小川島ならでは



結束の固さが古くから
の伝統を守る

島内には海の安全を守る神・

田嶋神社の境内に厄除けの八坂神社があります。この二つの神社には、毎年七月、「夏越さん」と「祇園さん」の二つの大きな祭りがあります。「茅の輪」をぐぐり半年分の罪けがれを祓い無病息災を祈る田嶋神社の夏越さんは、船団をお祓いし、その後、大漁旗を立てた船が島を三回ほど回り海上安全を祈願します。八坂神社の祇園さんは、夜になるとイカ釣り船に漁火を灯し、幻想的な世界が広がります。

八坂神社の祇園さんは、五穀豊穣や大漁を願つたもの。島民は法被姿で豪華な山笠を引き、島を練り歩きます。中心となるのは島の青年団。かつて島には100人を超える若者がいて同級生を「朋友」と呼んでいました。朋友同士は男の厄歳25歳の

明日への元気につつながっていく
祇園祭りで見せる結束と笑顔が

ときに染物屋で同じ法被を作り、それぞれに「旭朋友」などのグループ名を付けて、祇園さんのときにはその法被を着て参加し、結束の固さを表しています。

白い化粧は魔よけの意味

山笠の引き手の顔には白い化粧が施されています。これは、疫病が取り付かないように魔よけの意味があります。みんな同じように顔に白くすれば、お互いの名前を呼んでも誰か分からず、魔も取りつかないだろう、ということで始まりました。かつて、島には診療所がなく病気がやっては困ると自己防衛本能でいっぱいでしたが、今は青年の数も少なくなり、組が中心となります。化粧の仕方も朋友のグループごとに違いましたが、今は青年たちが自分で化粧を施しています。

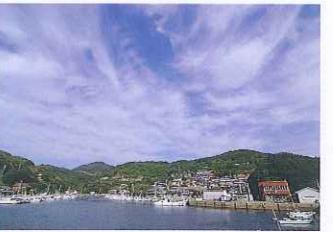


祭りの伝統は次の世代にも受け継がれる

少しづつ、やり方は変わつてきましたが、島の人々の結束だけは昔と同じように強く、古い伝統を守り続けています。



左／祇園祭では踊りなどの催しも島民総出で行われる
右／男の厄25歳のときに同級生同士で同じ模様の法被を作り、結束を固くしていた



仏教徒とカトリック教徒― 信仰心が厚い祈りの島



もお盆の夏祭りには帰るとか。

綱引き、盆踊り― 短時間に行事が凝縮 された多忙な夏祭り



馬渡神社は、住吉神社、八坂神社、大山祇神社、熊野神社など5つの神社を合祀したもの

馬渡島の住人は仏教とカトリック教徒がほぼ半分ずつ。古くから住む仏教徒が漁港付近の本村に、カトリック教徒は山側の新村に点在して住んでいます。

漁港側の本村では、八月十四日十五日、島の青年団が中心となつて賑やかに夏祭りが行われます。正月には島に帰らない若者

家庭を回り、庭で盆踊りをして魂を慰めます。十五日は夏祭り本番。20時に花火を打ち上げ、それを合図に青年団はまた初盆を迎えた家の庭で盆踊りを踊り、それが終わると本村の住人が東西に分かれて綱引き。次は馬渡盆唄に合わせて盆踊りの始まりです。100年ほど前から伝わる盆踊りは島のオリジナル。長老から若者に伝えられてきました。盆踊りが終わって



左上／本村の住民が東西に分かれて行う夜の綱引き。勝った方が豊漁を約束される

左下／精霊流しは真夜中、各家庭で飾り付けをした長さ1mほどの精霊船を沖に出て流す

中／馬渡盆唄に合わせて踊る馬渡島オリジナルの盆踊り

右／夏祭り。初盆をむかえる家の庭で青年団の盆踊り



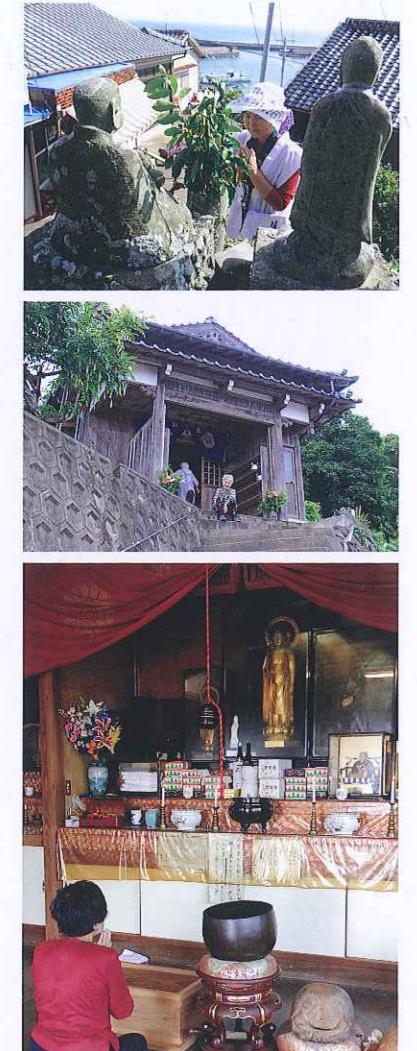
精霊流しをするのは、夜中12時に近くなつた頃。約4時間、ぎゅつと濃縮された忙しいお盆の夏祭りは幕を閉じます。

本村のもう一つの楽しみ、十月第4土・日曜は馬渡神社のおくんちの日。神輿が地区を回ります。その年、くんちを取り仕切る「座」と呼ばれる地区の班がくんち料理を作り、座の船が安全祈願のために海を周回し

お大師さん信仰が 人と人をつなぐ

お大師さん信仰が根付いた本村では、毎年旧暦三月二十一

ます。馬渡神社では餅まきも行われ、住民は家々を回つて、酒を酌み交わし地区の絆を深めます。



上／年2回のお巡り。島内88カ所のお大師さんに手を合わせる
中／観音堂はコミュニケーションの場でもある
下／観音堂にはいつもお参りの人人がいる



左／無病息災を願って「茅(ち)の輪」くぐり。1日目は男性、女性は2日目がぎより
右・中／馬渡くんち風景。小学生の「蛇踊り」や「餅まき」は今も変わらずくんちの楽しみ

日、各家庭から女性や子どもが参加して、各家々と島の八十八カ所に据えられたお大師さんを一日かけて巡り、最後は観音堂で巡りおさめます。旧暦八月二十一日にも個人で巡りますが、信仰の厚い島の人々は、毎日のように観音堂で祈る人も多く、人が集まるコミュニケーションの場になっています。

お大師さん信仰が根付いた本村では、毎年旧暦三月二十一

島 点描

馬渡島



島 * と ひっくす

小豆の粒あんがふかふかの皮に包まれた

まだらまんじゅう

ふかふかの皮に、小豆の粒あんが包まれた「まだらまんじゅう」は馬渡島に伝わるお饅頭。昔は、直径15センチほどの大きなものでした。今は食べやすい大きさになりましたが、食べ応えは充分。馬渡島の漁協婦人部が10年前から始めた「まだら夢工房」で販売しています。昔、自分たちでお酒を造っていた時代に、カトリック教の信者の方達が、湧いた麹を小麦に混ぜて、宵の口にこね、朝方蒸して「エンコネ万十」と言って、売りに来られたのが始まりだと聞いています。現在は、「ふくれもち」又は「ふくれだご」と呼ばれています。



問／まだら夢工房
TEL0955-82-9117

復活した馬渡島発祥の民謡 まだら節



航海の安全や豊漁を願った民謡「まだら節」は、馬渡島が発祥の地。その昔、魚を追って馬渡島にやってきた漁師がこの民謡が心にとまり、故郷に戻っても歌い続けて、今では石川県の七尾市や輪島市では無形民俗文化財に指定されています。ところが、本家・馬渡島ではいつの間にか歌われなくなっていました。そこで「まだら節」を復活させようと七尾市との交流を始めて、島の婦人部を中心に保存会を結成。再び、馬渡島で根付くように歌い続けています。

厚い信仰心が伝わる 馬渡島カトリック教会 会堂(御堂天主堂)

馬渡島にカトリック教の信者が移住して来たのは寛政年間(1789~1800年)。カトリック教徒、有右衛門が長崎県外海町黒崎から安住の地を求めて島に渡ってきたことから始まります。今では人口のほぼ半分がキリスト教徒です。

「馬渡島カトリック教会堂」は、昭和四年、平戸の紐差にあった聖堂を馬渡島に駐在していたフランス人宣教師・ブルトン神父や信者が尽力して購入し、2年もかかつて移築したもの。それ以前あった教会は、今、呼子カトリック教会堂へ移築し、今でもりづばにその役割を果たしています。



クリスマスシーズンには華やかな飾りが教会を彩る

平穏な暮らしに感謝し祈りを捧げる新村の人々



アンジエラスの鐘が鳴り響く島で穏やかな日々を

聖堂は解体して土台の石からすべて平戸から櫓漕ぎ船で運び、車がない時代に急な険しい山道を信者たちが担ぎ新村まで運んで、苦労の末、完成させました。今では教会としては珍しい木造建築でイタリア様式の建築。鐘塔は移築の際に新たに取り付けられました。苦労してやつと平戸から移築できた教会を、新村の信者は大切に思い、教会堂や周辺を年三回は総出で掃除をし、信者の手で壁を塗るなど心をこめます。平戸に建つていた時代から考えると有り難い時代だと思います。平戸に130年は経っていますが、教会内は新築のように美しく、光り輝いています。毎週土曜の夜と日曜の朝には、この教会に新村の人々が集まり、平穏で幸せな日々に感謝し、祈りを捧げます。



左／子どもたちの自立を助ける、聖母園
中／昭和4年に平戸から移築再建した馬渡島カトリック教会堂
右／クリスマスシーズン、教会内のメイン飾りはキリストが生まれた日を再現



島全体が家族—— 強い絆で結ばれたアツトホームな島

**島の人々をつなぐ
「酔いつぶれ」の祇園祭り**

肥前町の星賀港から郵便船で約10分。松島と同じくらい小さな島は、かつて豊臣秀吉の朝鮮出兵の際に物見番所として重用されました。今では、標高67mの島一番の高い場所に立つ灯台が、海上交通の安全を見守っています。

この島に伝わる八坂神社の祇園祭りは、かつて「賑わい見るなら博多の祇園、醉人見るには向島の祇園」と詠われるほど「酔いつぶれ」の祭りとして有名でした。今も祇園祭りには家庭を回って酒を飲み、歌を唄い賑わいます。

祇園祭は「祇園さん」と呼ばれ、



家のなかが賑わうこと が厄払いに

毎年旧暦六月十五日と十六日に行われます。準備は十四日から始まり、島の若者が長老たちの手ほどきを受け、境内に掲げる7本もある長い幟の竹を組み、無病息災を願い島民がくぐる「茅の輪」も竹を中心据え、島で採れた茅を巻いて輪をつくります。

十五日には島の周辺でとれたアワビ・シャジャ(サザエ)などを供え、神事を行います。翌十六日は「酔いつぶれ」の祭りの始まりです。島の若者が夕方八坂神社に集合し、大きな盆でお神酒を受けた後、神社の東側から順番に33戸ある島の家々を回ります。

若者たちは各家庭でもてなしを受け、酒を飲み、島の若者に代々伝わってきた歌を、三拍子の太鼓の音に合わせて唄います。歌は、ついぶん昔の流行歌を向島用に歌詞を変えたもの。四曲ほど唄った後、最後は「向島音頭」を唄い、乾杯と万歳三唱で締め、次の家庭へと移動します。酒を飲み、陽気に唄い、あれば賑わうほど厄払いになるとされ、最後の家にたどり着くのは午後11時過ぎ。

この祭りは真夜中まで続き、小さい島ながらも仲良く、心豊かに暮らしていこうとしている島民の気持ちを一つにしているようです。



左／高さ約7mの幟が八坂神社の境内へと続く
右／中／長老たちの手ほどきを受けて若者も幟づくりや旗立てを手伝う



左／島民が協力して島にある茅で作った「茅(ち)の輪」
右／祇園祭りのときにお神酒を受ける大きな盆



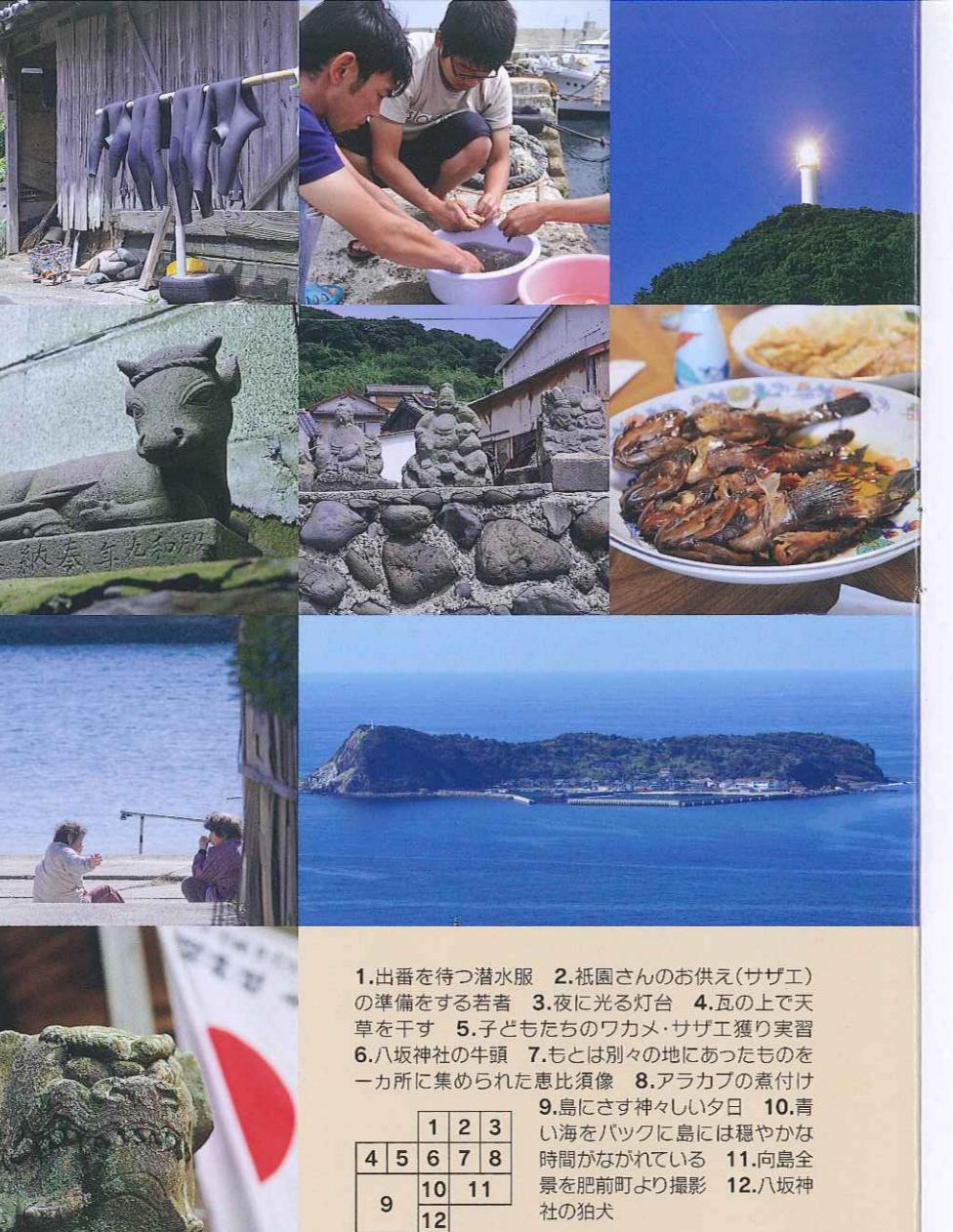
上左／歌の調子は太鼓の打ち方で決まる。叩き手の役割は重要な
上右／神社の東から順番に各家庭を訪問
下／厄払いのために各家で酒を飲み、賑やかに歌を唄う
若者たち





点描

向島



1.出番を待つ潜水服 2.祇園さんのお供え(サザエ)の準備をする若者 3.夜に光る灯台 4.瓦の上で天草を干す 5.子どもたちのワカメ・サザエ獲り実習 6.八坂神社の牛頭 7.もとは別々の地にあったものを一ヵ所に集められた恵比須像 8.アラカブの煮付け 9.島にさす神々しい夕日 10.青い海をパックに島には穏やかな時間がながれている 11.向島全景を肥前町より撮影 12.八坂神社の狛犬

1	2	3		
4	5	6	7	8
9	10	11		
12				

島 * と ひ っ く す

「農林漁家民宿あかあさん100選」(選定・農林水産省、国土交通省)
に選ばれた、民宿「しま」古川シゲ子さん

笑顔が魅力!しまの肝っ玉かあさん



港のすぐ目の前にある民宿「しま」。漁師歴約60年の古川侃さんとシゲ子さん夫妻が開業して20年になります。シゲ子さんは侃さんと一緒に漁に出掛け、家事もこなし、民宿の料理の采配も振るう元気なおかあさん。笑顔が実に魅力的です。

民宿「しま」で提供する料理は、向島でとれた新鮮な魚と自家栽培の野菜を使ったもの。シゲ子さんオリジナルメニュー「アビビの味噌焼き」も評判です。家庭的でざつくばらんなもてなしに心が癒されます。

半生を捧げて、向島の為に尽くした教師 松尾春子先生碑



学校のそばの「松尾春子先生を慕う碑」。昭和22年8月、創立間もなくたった向島小学校に赴任した先生は島民の幸福をねがい、島の子どもたちを愛する余りに、島を離れず子どもたちに接した。「星霜20年、島民は慈母のように親しんだ」(碑文より)といいます。



左／学校の運動会と合同で行われる島民運動会
右／カルタ大会で大人も子どもも大盛り上がり



花見、運動会、カルタ 大会は島の人総出で 楽しむ

そんな多くの船を所有する島民が、祇園祭りの日以外にも漁に出る事をやめる日があります。それは四月の花見と、九月にある島と学校の合同運動会やカルタ大会です。

花見は少し前までは「灯台

島では旧暦の三月一日から半年間、主に島の言葉でガゼ(ウニ)やシャジヤ(サザエ)などの海士漁を行い、その時期以外も漁に出で生計を立てています。港には世帯数33戸と少ないにもかかわらず多くの船が並んでいますが、これは素潜り用、釣り用など漁の形体に合わせて船を使い分けているからだといいます。

ガゼやシャジヤを とる海士漁

祭り」と呼び、各家庭が一品ずつ持ち寄って向島灯台のそばで島民みんなが集まって酒を酌み交わし、花見をしていました。最近は場所を変え、港のすぐそばで刺身や魚の煮物などをつまみに、朝から夕方まで島に住む大人も子供も、島に赴任している教師も一緒に親睦を深めています。

九月は、入野小学校の生徒も招いて、向島小学校と中学校の生徒と、島の人々と一緒に賑やかに運動会が始まります。かけっこや綱引き、玉入れなど、大人たちも童心に戻ることができ、子どもたちの成長を確認できる、島の人にとっても楽しみな行事の一つとなっています。



向島周辺で獲れたシャジヤとガゼ



左／ウニやサザエは素潜りでとる
中／冬の厳しい中ナマコ漁を行なう夫婦
右／港からは鷹島肥前大橋が望める

島の子どもたちに伝える みんなで力を合わせる大切さ

島民は敬虔なカトリック信者—— ロザリオの島

歴史はわずか150年ほどの若い島

周囲わずか3.6キロ、ひょうたんのようない形をした小さな島・松島は、人が住み始めてわずか150年(江戸時代・安政年間)ほど。松島のそばに浮かぶ加唐島から父と娘の親子が移り住み、島の歴史が始まりました。

娘は長崎県黒島から松島に釣りに来ていたキリストンの若者と出会って結婚。若者は地元から仲間三人を呼び寄せ、島に同じように、将来は島に残り

定住しました。時は過ぎ、現在、島には27世帯約79人が住み、そのほとんどがカトリック教徒です。

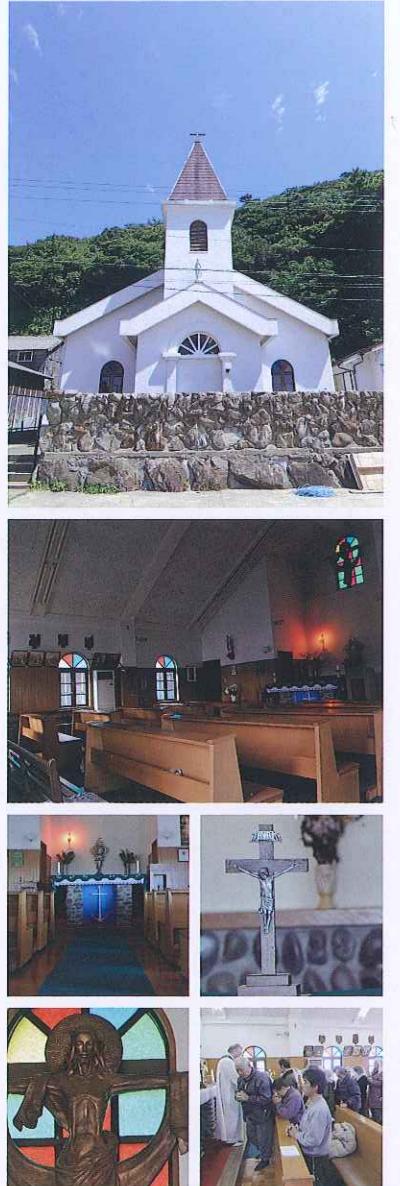
かつて急な坂を上った見晴らしのよい島の一番高い場所にあった松島カトリック教会は、今、船の出入りを見守るように港のそばにあります。毎週日曜になると、島民は祈りを捧げるために教会に集まります。島民の心の支えであり、生活の一部であり、コミュニケーションの場にもなっています。



魚の扱いがうまいのは 島の子なら当たり前

放課後の子どもたちの遊びは釣りや素潜りです。釣った魚を三枚におろすなど魚の扱いがうまいのは島の子にとっては当たり前のことで。海士や遊漁船で生計を立てる父親たちと同じように、将来は島に残り

跡を継ごうと思っている子も多いとか。一旦、島を出ても島の暮らしを懐かしんで結婚してから戻る若者も多く、島で子どもを産み、その子どもが大きくなつて島を出て、また戻ってきて…、を繰り返し、島の人口は20年前に比べ少しづつ増えているといいます。



島の未来を背負う子どもたちの笑顔



加唐小松島分校より漁港を眺める



ひょうたんの形をした松島

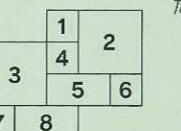


島 点描

まつしま
松島



1. 岩盤が侵食してきた松島観音 2. 島民が期待しているオリーブ畑 3. 奥に建つ松島カトリック教会は島のシンボル 4. ステンドグラスが美しい窓際 5. 玄武岩に覆われた島 6. 島には鳥もよく見られる 7. 収穫されたワカメは加工場に運ばれる 8. 完成したばかりの松島観光休憩施設



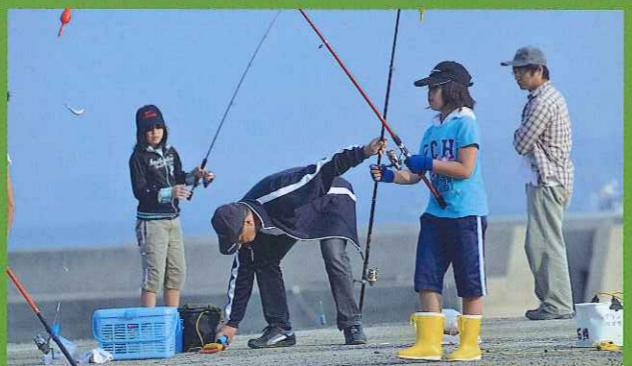
島 * と ひ っ く す

島の人気者
島唯一の自動販売機



旅館も、売店もない島の嗜好品は清涼飲料水。港に1台だけ自動販売機があります。釣りに松島に出掛けた時には、ホツとここで一息、喉を潤してください。

釣り好きには羨ましいかぎり
放課後はみんなで釣り



中学生は隣の島「加唐島」に船で通学、小学生は島の急な坂を上った加唐小松島分校に通っています。放課後、海で釣りをしたり、素潜りをしたりするのが日々の遊びです。遊びの中から、将来の海士や漁師としての基礎を作ることにつながっています。



左上／潜っては海面に上がって獲物をかごに入れてまた海の中へ。たいへんな作業が続く

右／「島の宝100選」に選ばれた海士漁。漁場までは一団となって出掛ける
左下／収穫したばかりのサザエやアワビ



小さな島の自然が育てる恵みに 将来の夢を託して

「島の宝100選」

(選定・国土交通省)に

選ばれた海士

島民の暮らしは、昔ながらに島の周辺で素潜りして魚介類をとる海士漁と遊漁船で成り立っています。

海士漁が出来る期間は十二月二十一日から翌年十月二十日までの10ヶ月間。朝9時半、黒いウエットスーツに身を包んだ島の男たちが一艘の船で港を出て、経験から知る漁場へと出漁します。おのののタイミングで息を止め潜り、サザエやウニ、アワビを取つて海面へ浮上し、かごに入れるとまた海の中へと消えていきます。実際に約4時間もその繰り返し。きつい作業ですが、小さい頃の遊びが素潜りだったこともあって慣れたものです。小さな島の住民が互いの安全、暮らしを支え合い、1艘の船に乗り協力し合う海士漁

6年ほど前に実験的に30本が植えられたオリーブの木は今では180本ほど。今、ようやく、白い花を咲かせています。収穫してオリーブ油にして販売に至るまではあと数年かかりますが、新たな特産品として将来への希望が出てきました。

オリーブより先に、特産品として軌道に乗りつつあるのが島で取れる天然の「アカモク」。アカモクは岩場に張り付き、海のミネラルをたっぷりと取り込み、纖維質も多い海草です。粘りが強くべたべたしていることから、島では「べた藻」と呼んでいます。メカブのように包丁で

将来的な生活の糧に。
夢を託すオリーブとアカモク

に対し、国土交通省が認定した「島の宝100選」に選ばれました。次世代に残していくたいという思いが込められます。



小さくしてポン酢をかけたり、そのままうどんや味噌汁に入れたりして食べます。オクラのようになります。アカモクの食感で、天然のワカメと共に評判も上々です。食べころは三月。島に残りたい若者のための、生活の糧となるように「オリーブ」も「アカモク」も大切に育てていこうと取り組んでいます。



左／天然のワカメもおいしいと評判
右／アカモクは松島のニューフェイス。これから島の特産品に

韓国との友好深める 百濟25代国王「武寧王」の生誕地・加唐島

伝説が伝説では無くなつた

「武寧王」の生誕地

佐賀県の最北端の加唐島。自然の入り江があることから、日本と大陸をつなぐ航海の要衝でした。そのためか、六世紀前半に活躍した百濟(現・韓国)の第25代国王「武寧王」が誕生した島という伝説が残っています。日本書記によると、461年、百濟國王加須利君が倭國(日本)と同盟関係を結ぶために弟を日本に差し向けていたと伝えられています。その時に同行した側室が加唐島で子どもを産み、この子が後の武寧王だと記されています。島には永年、武寧王がオビヤ浦の洞窟で



生まれ、そばにある井戸は産湯に使つたと言ひ伝えられて来ました。

その伝説を裏付けるように

韓国では武寧王の墓誌石が発見されて日本書紀に登場する

武寧王の生誕年月が一致し、

「生誕地は加唐島」という論文が2000年に韓国の史学雑誌「史学研究」に発表されると、地国際シンポジウム」が開催

加唐島の 武寧王生誕祭で 広がる日韓交流の輪

にわかに加唐島は注目されるようになりました。



上／武寧王生誕祭で披露された韓国の華やかな舞踊
中／祝辞を述べる来賓代表
下・右左／武寧王生誕記念碑の前で執り行われる神事



左／加唐島が架け橋になって日韓の草の根交流が広がる
右／「加唐ソーラン節」を一生懸命に踊る加唐島の子どもたち



左／武寧王が産湯に使つたとされる井戸
右／2006年、百濟の古都益山(イクサン)の神影石を使って建てられた
日韓交流の新しいシンボル「武寧王生誕記念碑」



島

点描 加唐島

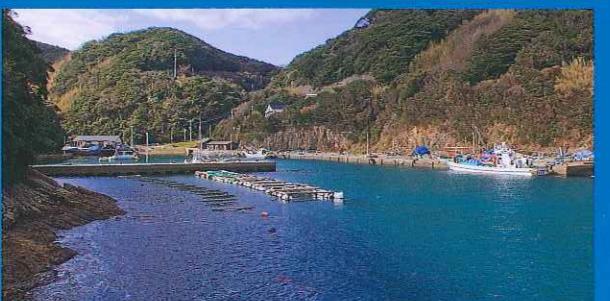


1.島の守り神・八坂神社 2.加唐島から上がる朝日を
松島より眺める 3.険くても美しい海岸線 4.観音様
が手を合わせているように見えるろうぎ観音 5.祇園祭
では子供神輿が行われる 6.丘にぎわう住居群
7.大泊漁では干し大根が並べてあつた 8.年月を感じ
させるお大師様 9.島には犬が一匹もいないという
10.カリオ岬のユウスゲ 11.迫力のある島の断崖

1	2
4	7
3	6
5	8
9	10 11

島 * と じくす

昔、捕鯨用の櫓漕ぎ船が停泊した
大泊漁港



小川島が中心となった捕鯨に加唐島の人々も参加していました。自然の入り江である大泊漁港には捕鯨用の櫓漕ぎ船がたくさん停泊し、若い衆は、鯨を捕まえるために、わら縄を叩いて網を編んでいたといいます。加唐島にも小川島同様、鯨の見張り所があり、鯨を見つけると知らせて、一斉に捕鯨に海へと出掛けていました。

見晴らしの良い3カ所に設置 黒船の見張り役



唐津藩は幕末、加唐島の見晴らしの良い場所に、黒船の見張り場「番所」を置き、黒船などあやしい船を発見すると、のろしを上げるなどして知られました。見張り役をそれぞれ「上の番士」「中の番士」「下の番士」と呼んでいました。神集島から異動して加唐島の黒船の見張り役「上の番士」の西家の子孫は今も大泊地区に住み、イカ漁やタイの一本釣りや定置網漁を手掛けています。

自然に育った正真正銘の天然椿

半農・半漁の加唐島には加唐港と島の中ほどに大泊漁港の二つの港があります。大泊漁港の辺りから北には野生のヤブツバキが自生し、昔から「椿の島」として知られていました。

二月には赤い花が島の斜面などに咲き乱れ、秋には実を付け、収穫が始まります。手を加えることなく、自然に任せ育つた正真正銘の天然ヤブツバキ。台風が来れば、熟す前に落ちてしまうなど、収穫量は天候に左右され、年によつては希少価値の高い椿です。

収穫した実は天日で干して、2~3日で殻が自然と割れると殻をむいて出荷します。すべて手作業で根気のいる仕事です。次の世代のためにもこれらは、自分たちで純度100%の椿油を作り、特産品にして生活の糧にしていこうと奮闘中。武寧王の誕生日では島で取れ



椿の島は、その美しさを次の世代にも伝えていく

た椿の油で揚げたイカやサツマイモの天ぷらが味わえます。

最近は、畑にはツワブキがよく植えられています。可憐な黄色い花を咲かせるツワブキの茎を食用として出荷し、おいしいと評判も良く、椿と共に今後が楽しみです。

海上の安全を祈る海上パレード

島の最北端のカリオ岬にはユウスゲが群生し、七月にはカリオ灯台を囲むように黄色い花を咲かせます。この時期には島の守り神・八坂神社では祇園祭りが行われ、子どもの神輿が登場したり、島の全漁船が大漁旗を掲げ海上をパレードし、海上安全を祈り、島全体の縊を深め盛り上がります。



左/ツワブキの茎は食用にして美味
中/ツワブキの栽培も徐々に増えている
右/黄色い花を咲かせるツワブキ



恋愛や家族への 思いを詠う万葉の島

海の安全を祈った 神功皇后伝説

定期船で約8分、唐津市湊から600メートルほど沖合いに浮かぶ神集島に到着します。神集島は船泊まりには都合のよい自然の入り江があつたことから、古代、大陸へ向かうための日本最後の停泊地として利用され寄港地として重要な場所でした。

西暦2000年代前半活躍した第14代仲哀天皇の妻・神功皇后も、天皇の名代で新羅へ出兵するためこの島を訪れます。奈良を向いて建つ摩呂王神社には応神天皇のへそ緒がまつられています。大陸をのぞむ弓張岳にある



万葉の7歌碑を巡る 「万葉ウォーク」

評議岩で軍事会議を行い、士気を高めるためそこから弓を放つことから弓張岳とい等等、島にはロマン溢れる伝説が数々残っています。

島の名は神功皇后が神々を集めて海の安全を祈願したことから立たと言われていますが、現在は、神功皇后になりかわって海中に鳥居が立つ姿が印象的な住吉神社の氏神様が、航海の安全を祈っています。

「帰りきて見む」と思いしが宿の秋萩すすき散りにけむかも」——六月に故郷を出発した使節は十月ごろには帰るつもりだったのでしょうか。この歌には「秋になり家族は心配

しているだろう。庭のハギやススキも散つてしまつただろう」という故郷への思いが込められています。「あしひきの山飛びこゆる雁がねは都に行かば妹に逢いて来ね」など妻や恋人への切ない思いを歌つたものもあります。

その歌の内容に添つた場所に1994年歌碑が建ち、毎年、歌碑を巡る「万葉ウォーク」が開催されています。多くの万葉や歴史ファンが訪れ、約1300年前の歌い手の気持ちに思いを馳せ、鬼塚古墳や浜木綿の群生地など、島の自慢の場所にも触れながら約8キロの道のりを巡り、海の幸でバーベキューを楽しみます。

今も昔も変わらない家族や妻、恋人への思いが伝えられる万葉の歌碑は島の誇りになっています。



2009年6月に開催された万葉ウォークで島に訪れた人々



左／神事を授かる祈願者
中上／神事に海上安全をいのる
中下／お供え物は海の幸のヒニキ
右／海中に鳥居が立つ住吉神社を海から眺める

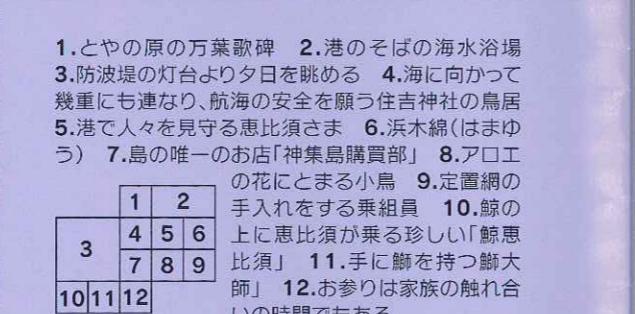


左／山中にひっそりと建つ摩呂王神社
右／住吉神社にある「蒙古碇石」。元寇の時、暴風雨に見舞われた海中に捨てていったと伝えられる



島

点描
神集島



- 1.とやの原の万葉歌碑 2.港のそばの海水浴場
3.防波堤の灯台より夕日を眺める 4.海に向かって
幾重にも連なり、航海の安全を願う住吉神社の鳥居
5.港で人々を見守る恵比須さま 6.浜木綿(はまゆ
う) 7.島の唯一のお店「神集島購買部」 8.アロエ
の花にとまる小鳥 9.定置網の手入れをする乗組員 10.鯨の
上に恵比須が乗る珍しい「鯨恵
比須」 11.手に鰯を持つ鰯大
師」 12.お参りは家族の触れ合
いの時間である

1	2
3	4 5 6
7	8 9
10 11 12	

島 * とひっくす

神集島の大立者「岩本三吉」氏の石碑
岩本三吉氏



大正末期、底引き網の1種で大敷網に日本で
初めて取り組み、漁業振興に寄与しました。漁
村の暮らし向きが楽になるように、収入が増
えるようにと、このやり方を無償で島民や近
県の漁師に紹介した人物です。その功績を称
えて島内に碑が立っています。

末永い幸せ願って女性の厄払い
のべだご



神集島では33歳の女性の厄年に、
厄払いをするため「のべだご」を作
る風習があります。のべだごは小麦の粉(現在は3割ほど米の粉を
混ぜる)を水で溶いて捏ね、出来
るだけ長く幅広く伸ばして鍋で茹で、
末長く健康で幸せに暮らせるよう
にと願いを込めて、床の間に飾り
ます。その後は小豆あんを作つて
混ぜて、おもそ分けとして配り、食
べて頂いて厄を祓います。



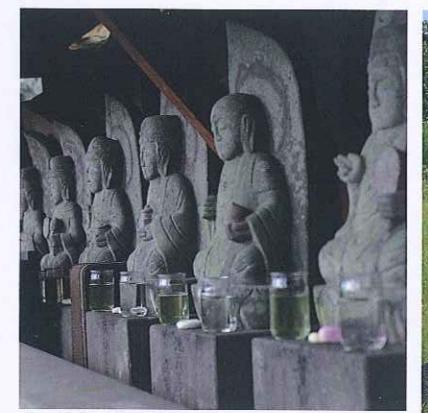
冠婚葬祭、盆、正月には欠か
せない石割豆腐は、大陸から作
り方が伝わり、島の家庭の味と
して代々伝わってきました。
石割豆腐は、半生の大豆と
海水から作る天然のにがりを
使い、重石で十分に水分を切る
のが特長です。やわらかさの代
名詞「豆腐」ですが、「石割豆腐」
は名前の由来どおり、豆腐を落
としても石の方が割れてしま
う、と例えられるくらいに硬く、
弾力性に富んでいます。江戸時
代石割豆腐を近所におすそ分
けするときに、わらで組んだひ

根強く残るこの島には「靈場八
十八カ所」があり、お大師さん
のほか薬師如来などの石仏が
まつられています。三月の第一
日曜日には、島外からもお巡り
する人々が訪れ、島では座(当
番のグルーピング)が食事を作つてご
接待します。

また、その昔、神々が集う場
所といわれていた「とやの原」に
は戦争などで自分の身内が亡
くなつたときに神々のそばで魂
を慰めたいと、小さな岩を台座
に石仏を置き、毎月十八日に
はこれらをお参りする野仏参
りが続いています。



毎月18日に漁師たちがあ参りの際にお供えする



左／信仰熱い島には多くの石仏が
右／神々が宿る「とやの原」に立つ石仏



大地と海の恵みは
これからも島の暮らしを支える

大陸から伝わった 石割豆腐

左上／石割豆腐づくりに励む島の女性たち
右上／かつて石割豆腐は今以上に固く、縄ひもで縛って運んだという
下／ヒジキの天日干しが海岸で見かける島の風景

万葉の時代から韓国と神集
島の交流をうかがわせるのに
島に残る言葉があります。親友
のことを韓国語で「チング」と言
いますが、島でも親友を「チン
グ」と呼んでいました。そんな大
陸との深い交流は食にもあり
ます。それが「石割豆腐」です。

島内には、「島の人口を超える」と例えられるくらい道端や
野に多くの石仏が見られます。
お大師さん(弘法大師)信仰が
根強く残るこの島には「靈場八
十八カ所」があり、お大師さん
のほか薬師如来などの石仏が
まつられています。三月の第一
日曜日には、島外からもお巡り
する人々が訪れ、島では座(当
番のグルーピング)が食事を作つてご
接待します。

また、その昔、神々が集う場
所といわれていた「とやの原」に
は戦争などで自分の身内が亡
くなつたときに神々のそばで魂
を慰めたいと、小さな岩を台座
に石仏を置き、毎月十八日に
はこれらをお参りする野仏参
りが続いています。



左／信仰熱い島には多くの石仏が
右／神々が宿る「とやの原」に立つ石仏



島おこしの宝「宝当神社」が 島を活気付けた アイデアグッズ「宝当袋」

唐津城のすぐそばの桟橋から、わずか2kmの沖合にある離島・高島。台形をしたこの島は、「宝が当たる島」として、毎年多くの観光客が訪れています。

平成に入って、「高島の宝当神社にお参りすると宝くじが当たる」と宝くじファンの間でうわさになっていました。このことがマスコミで紹介されると高島は全国的に有名に。ちょうど島でできないか模索していたところ、島の若者を中心とした島おこしグループが宝くじを入れる開運グッズ「宝当袋」を作ろう



というアイデアが飛び出し、売り出すと島は一気に活気付きました。

「島おこしの役に立てば」と思いを込めて「宝当袋」をミシンで一枚ずつ縫っていた島のおばちゃんたちの間に連続して当選する人が出るとさらに評判を呼び、宝当神社の人気はますます高くなりました。

かつて年間300人の 観光客が1日4000人に

それまで島を訪れる観光客はほとんどなく釣り客が年間300人ほど。宝当神社が知られると、宝の島に船で訪れる神秘性も手伝って、年間10～15万人、多い時には一日4000人も島を訪れたといいます。小さ

な島に小さな船から多くの参拝客が乗り降りする姿は「島の宝100選」に選ばされました。島民が中心となつた島おこしグループが宝くじを入手してライフルインやハード面も整いつつあり、島の生活も賑やかに。島内のマップも島に生まれ育ったイラストレーターが手掛け、島への思いを綴った宝当音頭が出来ると盆踊りの振り付けは保母さん。高島に昔から残る島の大衆文化「口説き」も「保存会」が出来て島の若者が月一回、練習を重ねるなど、若い力も動き始めました。これからも島を上げての島おこしは続いています。



上・左下／宝当音頭に合わせての盆踊りは島民の楽しみとなつた
右下／島への思いを綴った「宝当音頭」はCDで発売中



高島のイラストレーターが作成した散策マップ



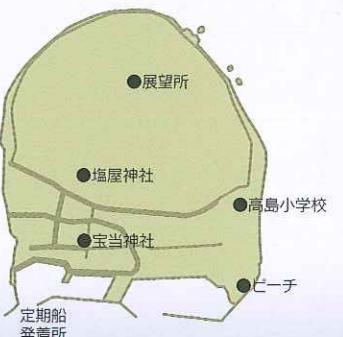
人々の恋愛模様など、口伝えて歌い継がれてきた「口説き」月1回ほど練習を行っている



唐津市漁協高島支所の女性部・さざなみ会が作る「宝当てんぶら」は、島で獲れた新鮮な魚を使っているので美味しいと評判



高島の人気のお土産「宝当グッズ」
1994年頃の宝当袋は島のおばちゃんたちの手づくりだった。初代の宝当袋(右)



島 点描

たかしま
高島



左上／参拝者に宝くじ高額当選者が続出する宝当神社
左下／「野崎隱岐守綱吉」のお墓の上に宝当神社が建っている
右／1851年、野崎隱岐守綱吉が島の氏神として建立した塩屋神社

1	2
4	5
3	6
7	8
10	11
12	

1.漁業従事者の海岸清掃。海が時化(しげ)た時も、大事な仕事 2.たった12名の小学生、壁画に挑戦 3.百手祭で弓矢の指導。伝統が受けつがれてゆく 4.保育園のイベントにて餅つき 5.参拝客でにぎわう宝当神社 6.女性も活動に参加している消防団 7.宝当神社のお清め水 8.漁協女性部のパソコン教室 9.塩屋神社に鎮座する狛犬 10.小学校PTA親子で魚のさばき方教室。本場の漁師さんから直接の指導をうける 11.盆踊りの準備も島民が作業を分担 12.百手祭での笑顔に吉相間違いなし

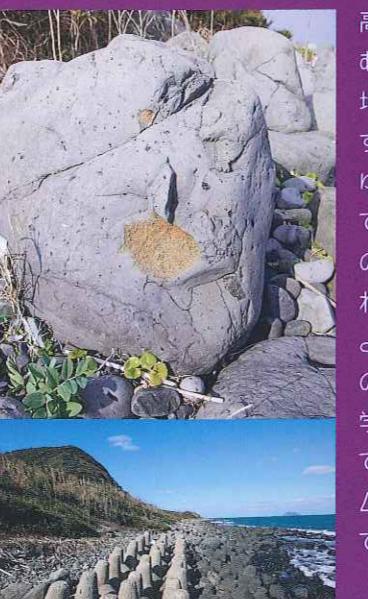
島 * こひっくす

正月の風物詩
乗り初め(ミカンまき)

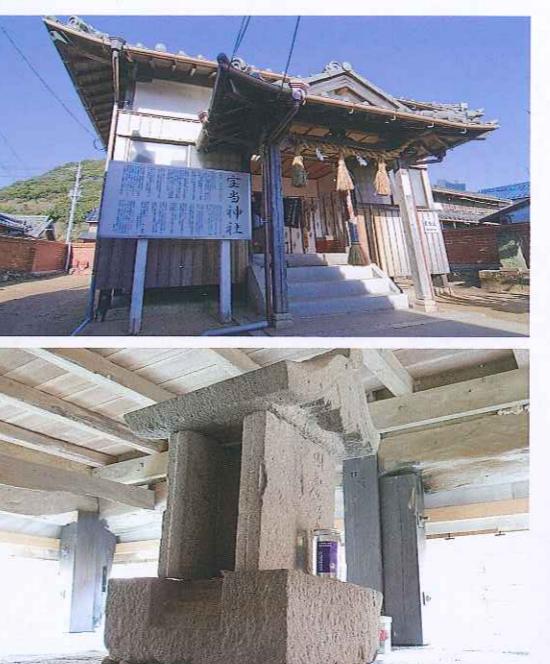


年頭にあたり元旦の朝、大漁祈願や航海安全を願つて行われる初乗りの行事です。定置網の船や底引き網の船、海上タクシーの船上から威勢良くミカンがまかれます。島民、帰省客と一緒に賑わう高島の正月風景です。

高島は地質学的に有名!
カンラン岩



高島はカンラン岩を多く含む玄武岩が見られることで地質学的に有名な島です。カンラン岩は、マグマがゆっくりと冷えて固まってきた岩のこと。オリーブのような黄色から緑色のきれいな色をしていて宝石のようです。これは地下深部のようすを知る上で、地質学的に有名な貴重な資料で、大学などから調査チームが島を訪れて研究を行っています。



左上／参拝者に宝くじ高額当選者が続出する宝当神社
左下／「野崎隱岐守綱吉」のお墓の上に宝当神社が建っている
右／1851年、野崎隱岐守綱吉が島の氏神として建立した塩屋神社



**島を海賊から守った
戦国武将**

島の氏神は塩屋神社

その野崎隱岐守が建立した

塩屋神社は宝当神社から約5

分の場所にあり、菅原道真やス

サノオノミコト、大山祇神の三

神を合祀し、「水の神」として、

海上の安全を見守っています。

神社のお祭りは、二月には夏

越し祭(百手祭)、八月には夏

くんちがあり、島民上げて行わ

れます。百手祭は弓矢での射

て吉凶を占い、繁榮を祈る神事。

地区の世帯代表が朝早くから

百手祭は弓矢での射

て吉凶を占い、繁榮を祈る神事。

地区の世帯代表が朝早くから

百手祭は弓矢での射

て吉凶を占い、繁榮を祈る神事。

地区の世帯代表が朝早くから



上／神妙に夏越し祭の芽の輪ぐりが始まる
下・右／塩屋神社の百手祭で弓矢を射る島民

「島の宝」と
島民の神話は続く



集まり、話し合いを持ちながら
酒を酌み交わし、祭りの中では
一番賑わいます。高島くんちで
は、かつてご馳走でもなしてい
ましたが、時代の流れと共にそ
の習慣は薄れています。

しかし、今も野崎隱岐守綱

吉、塩屋神社や宝当神社は島の

暮らしの中心にあって人々を支

え、今、島は熱く

賑わっています。

これからも「当

島の宝」として、

島の中心にあり

続けます。